飯田女子短期大学紀要 第34集，37-46，2017

キャリア教育「ようこそ先輩」の学びと今後の教育方法の検討

登内芳子・刈部亜美

Having Learned by Career Education "YOUKOSO-SENPAI" and Examination of the Future Education Method

Yoshiko TONOUCHI and Ami KARUBE

要旨：A短期大学では，キャリア教育の一環として卒後３～５年目の先輩を招き，グルーピングされた約６名の１年生と，看護やキャリアについて自由に歓談する「ようこそ先輩」という時間を設けている．本研究では，「ようこそ先輩」での学びを明らかにし，今後の教育方法を検討した．方法は，受講した学生のレポート記述内容から「先輩の話を聞いて考えたこと・感じたこと」を学びとして抽出し，内容分析した．その結果，12のカテゴリーが生成された．多くの学生が理想の看護師像をイメージし，看護師の仕事がどのような仕事かを考えていたが，看護師になる自分の気持ちや考えを確認している学生もいた．また，学びには多くの視点があり，学力や志望動機が様々で悩みも異なる多様な学生がいることも示唆された．学生は，多くの学びを得ただけでなく，看護師になることへの不安や悩みが軽減され，前向きな気持ちへと変化していたことから，このキャリア教育の方法及び実施時期が有効であると考えた．

Key words：キャリア教育（career education），看護学生（nursing students），教育手法（education method）

はじめに

子どもたちをめぐる多くの課題から，「キャリア教育」という文言が公的に登場し，その必要性が提唱されたのは，平成11年12月，中央教育審議会答申においてであり，その後推進するために多くの施策が展開されてきた[1]．平成23年１月，中央教育審議会は「今後の学校におけるキャリア教育の在り方について（答申）」[2]において，「キャリア教育」とは，「一人一人の社会的・職業的自立に向け，必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して，キャリア発達を促す教育」であると定義している．また，基本的方向性の一つに，「幼児期の教育から高等教育まで体系的にキャリア教育を進めること」と示している．

近年，A短期大学に学に入学してくる学生の中には，目的意識が明確でないままに周囲の人の勧め等により看護職を選択した者が増えつつある．それゆえ，学ぶことに意義を見いだせなかったり，学ぶにつれ不安が強くなったりして行き詰まる学生も少なくない．そこで，A短期大学では一年生を対象に，看護の専門職として自らのキャリアデザインを描くことができるよう幾つかの取り組みを行ってきた．平成25年からは，「キャリアデザイン」という科目を開設し，社会に求められている看護専門職のありようを学ぶ機会を通して，自らの生き方を考えたり，職業生活の中で自分が何を実現しようとするのか，職業に対してどういう意味づけをするのかを考えたりしている．

2017年3月16日受付；2017年4月28日受理

その一コマに，「ようこそ先輩」がある．これは，卒後３～５年目の先輩を招き，１グループ６名程度の少人数グループに分けられた１年生と看護について，キャリアについて，自由に歓談するという形式で行っている．この形式で行うメリットとして，個々の疑問や興味関心について質問したり話したりしやすくなり，学生の学びが深くなると考えたが，今回それ以上に学生の学びが広く深いものであったと感じた．そこで，本研究では「ようこそ先輩」での学びを明らかにし，今後の課題や教育方法について検討することとした．

「ようこそ先輩」の概要

近隣の病院に就職している卒後３～５年目の卒業生に，これまでの看護の経験や思い，後輩に伝えたいことなど自由に話して欲しいこと，また，１年生からの質問に思ったままに答えて欲しいことを伝え，協力を依頼する．内諾が得られた人に対しては正式に所属する病院の看護部長宛てに依頼文書を送付し，１年生には事前に主に看護について，キャリアについて具体的に先輩に聞きたいことを考えてくるよう伝える．

実施時期は10月中旬頃で，時間は先輩が勤務上来校しやすいように３限目となるよう配慮する．

当日は，１年生５-６名を１グループとし，グループ毎にリーダーを決め，リーダーを中心に先輩をお招きする雰囲気と場の準備をする．準備ができたら，リーダーは講師控室に担当の先輩を迎えに行き，グループに迎え入れた後，簡単な自己紹介をする．その後それぞれに考えてきた質問などしながら歓談し，１時間ほどしたらグループごとに雰囲気の良いところで先輩にお礼を言いお見送りをして終了する．後日，「先輩の話を聞いて考えたこと（看護に対する考えや思いの変化，将来のビジョンを中心に）」をテーマとしてレポートを作成し提出する．また，グループ毎に先輩にお礼の葉書も作成し投函する．

方　法

１．データ収集方法

平成27年度「ようこそ先輩」を受講した57名のレポートの記述内容から，学びとして「学生が先輩の話を聞いて考えたこと・感じたこと」を表している文脈を一塊として抽出し，データとした．データとするかどうかは授業担当した教員２名で検討した．

２．分析方法

まず，データを解釈しながら意味内容を適切に表す言葉で表現しコード化した．データに複数の内容が記述されている場合は分割し，複数のデータとしてコード化した．次にコードの相違点，共通点について比較検討し，類似性に従い分類しサブカテゴリーを生成した．さらに，サブカテゴリー間の関係性をみながら意味内容の類似性に従い包括的にまとめカテゴリーを生成した．その後妥当性を高めるため，何度もカテゴリー，サブカテゴリー，コードの関係性を生データに立ち返りながら吟味し修正した．最後に，結果をもとに今後の教育方法を検討した．

３．倫理的配慮

授業終了時レポートの提出について説明した際と評価終了後に，本研究の目的や結果を公表すること，研究への協力は自由意志であり協力しないことによる不利益がないこと，プライバシーの保護に関する配慮などについて説明し，研究への協力の同意を得た．

結　果

学生（１年生，57名）が先輩の話を聞いて考えたり感じたりした499の記述単位をデータとし，分析の結果，12のカテゴリーが生成された．記述数が１のサブカテゴリーはその他としてまとめ，表にカテゴリー，サブカテゴリー，記述数の一覧を示す．

表　「ようこそ先輩」での学生の学び　　（　）：記述数

カテゴリー	サブカテゴリー
1 看護師をしている先輩について査定した（32）	患者を大切にしている（9） 患者や家族に頼りにされている（5） 看護の話をするとき輝いている（4） 看護の仕事を楽しんでいる（4） 患者としっかり向き合おうとしていてすごい（2） 看護師として意識が高い（2） その他（6）
2 なりたい看護師像をイメージした（59）	先輩のような看護師（20） 看護の専門的な技術を身につけた看護師（8） 患者に寄り添える看護師（7） 患者に関心を寄せ思い遣れる看護師（5） 患者だけでなく家族もケアできる看護師（4） 信頼される看護師（4） 命と向き合える看護師（2） 患者の為になれる看護師（2） やりがいを持って働ける看護師（2） その他（5）
3 看護師の仕事はどんな仕事なのか考えた（47）	素敵な仕事（5） やりがいを感じられる仕事（5） 責任の重い仕事（5） 大変な仕事（5） 学びの多い仕事（4） 命と向き合う仕事（4） 素晴らしい仕事（3） 奥が深い仕事（3） 患者を看る仕事（3） 楽しい仕事（2） 成長できる仕事（2） 患者に支えられる仕事（2） その他（4）
4 看護師のやりがいや頑張れる理由について考えた(20)	感謝される（6） 認められる（3） 患者の回復を間近で感じられる（3） 良い看護ができたと実感できる（3） 患者のためにより良いケアをしたいという思いがある（3） その他（2）
5 看護師になる自分の気持ちや考えを確認した（43）	不安や悩み等が軽くなり前向きになれた（14） 早く看護師になりたい（6） 看護師になる自分について考えていきたい（5） 看護師になる意志を再確認できた（4） 今まで以上になりたくなった（3） 看護師を身近に感じた（3） 看護師になる意志が固まった（2） 看護師になる自分について考えられるようになった（2） その他（4）
6 看護（ケア）する上で大切なことについて考えた(97)	知識・技術を身につけてケアする（14） よく見て思いをくみ取る（理解する）（13） 患者に心を向ける（9） 患者のためにケアする（8） 患者の立場になってケアする（6） 先を見てケアする（5）

	精神的なケアもする（5） 苦痛を軽減する（4） 根拠を持ってケアする（3） 目を見て話す（3） 患者の状況に合わせたケアをする（3） 患者と信頼関係を築く（3） 患者のニードを理解する（3） 患者をよく観察する（2） 患者と正面から向き合う（2） 患者と同じ目標に向かって看護する（2） 忙しい時にこそ立ち止まり余裕を作る（2） 傾聴する（2） その他（8）
7 自分の欠点について考えた（45）	患者のことより技術を重要視していた（11） 看護師を志した時の気持ちを見失っていた（7） 視野や考え方が未熟である（5） 困難なことに立ち向かおうとしていなかった（4） 患者のことよりも自分本位の考えが優先していた（4） 患者の気持ちを十分理解していなかった（3） 患者中心であることを忘れかけていた（2） どのような看護をしたいのか漠然としていた（2） その他（7）
8 今の自分に必要なことについて考えた（102）	日々学んでいることにしっかり取り組む（身に付ける）（23） 努力し積み重ねていく（19） 目標に向かって頑張る（15） 逃げずに取り組む（9） 普段から周りの人に関心を寄せて関わる（4） 看護を考えながら生活する（4） 患者の為になる実習をする（3） 自分を磨く（3） 失敗を振り返り次に生かす（2） 気分転換の方法を見つける（2） 体調管理をする（2） 悩みを相談する（2） 気づいたら行動に移す（2） その他（12）
9 今学んでいることの意義について考えた（16）	より良い看護ができるようになるために学んでいる（8） 患者理解のために大切（2） 国家試験のために大切（2） その他（4）
10 学習の仕方について考えた（24）	身体を使って勉強する（4） メリハリをつけ、やるときは集中してやる（4） わからないことをそのままにしない（3） 患者のことを考えながら勉強する（3） 予習復習する（2） グループワークを大切にする（2） その他（6）
11 将来看護師となったときにどうしていこうか考えた(5)	上手くいかないときは支援してもらう（2） その他（3）
12 気づかなかった臨床現場の状況について考えた（8）	救命救急という部署について考えた（5） その他（災害現場など）（3）
その他（1）	健康でいられることの幸せに気づいた（1）

以下，カテゴリーを【　】，サブカテゴリーを〔　〕とし，それぞれについて学生の記述「　」を引用しながら説明を加える．

1．【看護師をしている先輩について査定した】

学生は，先輩が看護師としてどのような人なのか，看護の仕事をどう思っている人なのかなど，質問したり話を聞く中で想像し査定していた．先輩は〔患者を大切にしている〕ととらえた記述が9と最も多く，次いで〔患者や家族に頼りにされている〕，〔患者の話をするとき輝いている〕，〔看護の仕事を楽しんでいる〕の順で多かった．また，すべてが先輩をよい印象でとらえていた．例えば「先輩は非常に患者さんを大切にしているし，人っていいなと思えるほど患者さんと良好な関係を築いている」，「患者さんとの様々な体験を話している姿，仕事のことを話している姿はとても輝いていて，とても楽しそうだった」などがあった．

2．【なりたい看護師像をイメージした】

学生は，先輩と話す中でどのような看護師になりたいか，具体的にイメージしていた．中でも，先輩の良いところを評価し自分も〔先輩のような看護師〕になりたいと示した記述が20と最も多かった．次いで〔看護の専門的な技術を身につけた看護師〕になりたいが8，〔患者に寄り添える看護師〕になりたいが7の順で多かった．例えば，「先輩が看護師の仕事について楽しそうに話す姿を見て，私も将来は看護に対してやりがいを感じながら働くことのできる看護師を目指したい」や「専門的な知識や技術を身につけ，先輩のように患者さんのことを一番に思い強い意志のある看護師を目指したい」，「先輩のように人に笑顔を与えられるような強い看護を目指したい」などがあった．

3．【看護師の仕事はどんな仕事なのか考えた】

先輩の話を聞きながら，あらためて看護師の仕事がどんな仕事なのか考えた記述は47であった．その中で，看護師の仕事は〔大変な仕事〕，〔責任の重い仕事〕と負担の多い仕事と捉えた学生もいたが，〔やりがいを感じられる仕事〕，〔素敵な仕事〕，〔学びの多い仕事〕などプラスのイメージで捉えた学生が多かった．また，多くの学生が仕事の大変さを感じながらもそれ以上に良い仕事だと感じていた．例えば，「看護師になるにもなってからも辛いことはあると思うが，とても尊敬できるし，直接人に関わりやりがいを感じることができる仕事だと実感することができた」，「看護師の仕事は大変で辛いことがある分，患者さんとのつながりを感じることができる素晴らしい仕事であると感じた」などがあった．また，マイナスイメージが強かった考えが変わったと記述した学生もいた．例えば，「看護の道はハードで辛いことの方が多いという思いが強くあったが，“辛い”ということだけでなく，この職に就いてよかったと感じられる瞬間がたくさんある素敵な仕事だという思いに変わった」などがあった．

4．【看護師のやりがいや頑張れる理由について考えた】

先輩の話から看護師のやりがいや頑張れる理由を具体的に感じ取った学生もいた．それらは，患者や家族から〔感謝される〕，〔認められる〕という他者から評価されるものと，〔患者の回復を間近で感じられる〕，〔良い看護ができたと実感できる〕など自身が感じられる喜びなどがあると感じた学生がいた．

5．【看護師になる自分の気持ちや考えを確認した】

先輩の話を聞いたり，先輩に自分のことを聞いてもらったり質問したりする中で，看護師を目指している自分自身の気持ちを確認したり，整理したりしている記述は43であった．

学生の気持ちは，看護師になる意欲が高まった，看護師になる意志を再確認したり固めたりできた，前向きに考えられるようになった，など幅広かった．〔早く看護師になりたい〕，〔今まで以上になりたくなった〕，〔看護師になるのが楽しみ〕（その他）と意欲を高められた学生の中には，入学当初から看護師になる意志を強く持っていた学生もいたが，先輩と話すことで不安が軽減し意欲が高まった学生もいた．例えば，「看護師という職業はとても大変だし，厳しいし，難しいこともたくさんある．でも，今回先輩方から様々なお話を聞くことができて，自分の気持ちの中で変わったことがある．それは，自分も早く“看護師になりたい”と思うようになったことである」などがあった．また，意欲を高められた学生以上に，自分が看護師になっても良いのか，本当に看護師になれるのか，と不安になったり悩んだりして後ろ向きになりがちな気持ちを前向きにすることができたとする〔不安や悩み等が軽くなり前向きになれた〕記述が14と多かった．例えば，「看護師への道を諦めてしまいたくなったわけではないが，逃げ出してしまいたいと逃げ道を探すことに一生懸命になっている自分がいた…“大事なのは看護師になってからどうあるべきかですから”という先輩の言葉を聞いてから，壁にぶち当たって自信を無くして，“こんな私が看護師になってもいいのかな”と悩んで不安に思っている今も決して無駄ではないのだと思えた」，「不安を抱えていることだって，それだけ今に真剣に向き合っている証拠でもあるんじゃないかと思えるようになった」，「今はきっと悩む時期で，必ず看護師になって人の役に立ちたいと思う時期が来るのだと考えられるようになった」などがあった．

6．【看護（ケア）する上で大切なことについて考えた】

学生は，先輩の臨床経験を聞きながら看護する上で大切なことについて考え，多くを学んでいた．それらは，看護する上で必要となる能力，関わり方，心の在り方など多くの視点があった．記述数では，〔知識・技術を身につけてケアする〕が14で最も多く，次いで〔よく見て思いをくみ取る（理解する）〕が13，〔患者に心を向ける〕が9の順で多かった．

〔知識・技術を身につけてケアする〕では，看護師として身につけていることが前提でありそれがないと務まらないと考えた学生もいれば，不十分な知識や技術で患者の前に立つことは恐ろしいこと，看護師として恥ずべきこと，責任をもって看護できない，などと考えた学生もいた．例えば，「知識がないと患者を死にさらしてしまうということを学んだ」，「看護師として働く中で，知らないことやできないことがある，または自分がした行動が患者の命を危険にさらすかもしれないと考えるとものすごく怖いと感じた」，「知識がなければ患者さんを目の前にしたとき，何をしたらよいのか，何を重点的に観察しなければならないのかが分からない．また，今それをするべきなのか，他に優先することはないのか，考える判断力がないとケアを提供することはできないのではないかということを考えた」などがあった．〔よく見て思いをくみ取る（理解する）〕では，言葉だけに頼らず患者さんをよく見て思いをくみ取ることが大切だと考えた学生が多かった．例えば，「どんなに忙しくても患者さんの目を見て話し，表情からもいろんな思いをくみ取っていかなければならないのだ」，「言葉だけでなく，患者さんの表情や態度・しぐさからも気持ちを読み取っていくことが大切だ」などがあった．〔患者に心を向ける〕では，「看護には，たとえ知識や技術があっても，患者を思う気持ちがないとうまく向き合っていくことができないと感じた」などがあった．

7．【自分の欠点について考えた】

学生は，先輩と話をする中で自分を見つめ，自身の短所や不十分な点について考えたり，

見失っていたあるいは忘れかけていた大切なことに気づいたりしていた．例えば，「私は，日頃の講義と演習から，教科書の内容などの技術を重視しがちで，患者に対する大切な思いに欠けている面が多々あった」，「私は演習時，新しい技術を身に付けることに重点を置いていたため，患者さんの気持ちを考えたケアを提供できていなかった」など〔患者のことより技術を重要視していた〕と気づいた記述が11と最も多かった．次いで，「最近の私は，かつて私が考えていた，患者さんの目線に立ち，患者さんに良いケアをしたいという気持ちよりも，知識を持つことが全て，という考えに変わってきてしまっていた…私が一番目標にしていた自分自身の目標を見失っていた」，「目の前のことで精一杯になり，本来の目的までも見失っていた」など〔看護師を志した時の気持ちを見失っていた〕と気づいた記述が７であった．

８．【今の自分に必要なことについて考えた】

学生は，先輩と話す中で看護について考えたり理想の看護師像をイメージしたりしながら，今自分が何をすべきなのかと考えていた．記述数が23と最も多かったのが〔日々学んでいることにしっかり取り組む（身に付ける）〕で，「先輩は，今大学の講義を受けたいと感じると教えてくれました．私は，その講義を受けることができる立場にあるのだから，無駄にすることなく取り組む事の大切さを感じました」や「私には今学んでいる基礎となる知識を身に付けることが必要である」などがあった．次いで，「とにかく今の私がするべきことは，日々の課題などを提出することだけが目的にならないように数年後の国試，またその先の臨床に出ていく自分のためになるのだという意識をもって，その場しのぎにしないようコツコツ努力していきたい」，「今自分にできることを積み重ね，将来の自分の力になるようにしたい」などの〔努力し積み重ねていく〕が19と多かった．〔目標に向かって頑張る〕は，「患者さんの立場に立つことができる看護師になるために，日々の勉強を頑張りたい」や「私は先輩と同じように患者さんの役に立ちたいという気持ちで看護師を目指したので，その気持ちを常に忘れないでこれからの実習や演習を行っていきたい」などがあった．

９．【今学んでいることの意義について考えた】

学生の中には，先輩との話の中で今学んでいることの意義について考えた学生もいた．その中で，「なぜそのような“技術”を学んでいるのか，先輩のお話をお聞きし改めて気づくことができた…本来の目的は，そのより良い看護や環境を提供することによって患者が目指している目標に近づけるためである」，「先輩の話を聞いて，この勉強は自分のためだけでなく，これから出会っていく患者のためにやっていると思った」など，〔より良い看護ができるようになるために学んでいる〕と考えた記述が８で最も多かった．他には，「病態生理と人体構造機能学をしっかり覚えておくと，病気についてわかりやすくなり，身体のことも繋がりやすくなり，アセスメントでも役立つことが分かった」などの〔患者理解のために大切〕，〔国家試験のために大切〕などがあった．

10.【学習の仕方について考えた】

学生の中には，先輩の学生時代の話を聞いたりする中で自分の勉強の仕方を振り返り，今後の学習の仕方について考えたものもいた．それらは，〔身体を使って勉強する〕，〔メリハリをつけ，やるときは集中してやる〕，〔わからないことをそのままにしない〕などがあった．

11.【将来看護師となったときにどうしていこうか考えた】

学生の中には，先輩の仕事の話から，将来働いていて困ったときには一人で悩まず他の看護師や職員に協力してもらったり，助けて

もらったりすることも大切なことだと学んだ者もいた．また，仕事をする上で職員同士の人間関係が仕事にも影響するので大切だと学んだ学生もいた．

12.【気づかなかった臨床場面の状況について考えた】

学生の中には，先輩の経験を聞きながら，今まで気がつかなかった救命救急という部署の特徴や災害場所での看護について考えた学生もいた．

考　察

卒後３～５年目の卒業生に依頼している背景には，いくつかの期待・理由がある．それらは，卒業生の側面として，臨床経験が３年以上あれば経験から自分なりの看護観を持ち自分の言葉で看護の体験や思いを伝えることができると考えられる点，卒後年数が浅いため学生の話を学生目線で共感しながら聞き助言することができると考えられる点である．また，学生の側面として，数年前まで自分と同じ大学で学び，講義や演習，実習を行ってきた先輩は，初対面とはいえ身近な存在の看護師として捉えられ，その言葉から自分のキャリアデザインをイメージしやすいと考えられる点である．

今回，多くの学生が，先輩看護師に対して尊敬や憧憬の思いを抱いていた．そして，先輩を理想の看護師像と感じ，先輩のような看護師になりたいと記述していた．また，看護師になる意欲を高めたり，看護師になることに不安や悩みを抱えて後ろ向きになりがちな気持ちを前向きにすることができていた．さらに，自分を見つめ，看護師になるうえで自分の欠点についても多くの気づきを得ていた．これらは，まさに先輩を身近な看護師として捉え未来の自分と重ね合わせることができた結果であり，先輩の言葉が学生の心に響き効果的に作用した結果であると考える．ある看護短大の調査で，入学時に目指す看護師像がある学生は50%程度であった[3]という報告があるが，理想の看護師像があることは，キャリアデザインを描くうえでも，学習意欲を維持・向上させていく上でも大変重要な要素であると考える．その点で，今回ほとんどの学生が先輩との交流を通して理想の看護師像を具体的に表現できていたことは，大変意義のあることであった．

看護師の仕事については，〔素敵な仕事〕，〔やりがいを感じられる仕事〕などプラスのイメージで捉えた学生が多かった．〔責任の重い仕事〕，〔大変な仕事〕など負担の多い仕事と捉えた学生もいたが，それだけに終わらず大変さを感じながらもそれ以上に良い仕事だと感じた学生がいた．また，大変な仕事であっても頑張れる理由や，看護師のやりがいについても考えられ，看護の仕事について深く考えることができていた．看護（ケア）する上で大切なことについては，既習した基本的なことが多かったが，素直な自分の言葉で記述されており，先輩と話す中で改めてその重要さに気づいたり，理解が深まったりしたことが考えられた．

今回，多くの学生が先輩と話をする中で看護師になる自分の気持ちや考えを確認したり整理したりしていた．その中で，不安が軽減し意欲を高められた学生や，後ろ向きになりがちな気持ちを前向きにすることができた学生が多かった．また，今学んでいることの意義について考えた学生や，学習の仕方について具体的に検討している学生もいた．Ａ短期大学の学生には学力の問題もあるが，それだけでなく前述したように目的意識が明確でないままに周囲の勧め等により入学してくる学生が増えつつあり，今学んでいることに意義を見出せなかったり，どう学習したら良いのか悩む学生が少なくない．大学生の学力低下，学習意欲の低下が指摘されて久しい[4-7]が，18歳人口の減少や４年生大学の看護学部造設，進学希望者の四年制大学志向などに伴

い，短期大学生の学力低下は顕著であると考える．また，Ａ短期大学だけでなく他大学においても，看護師を志望していない学生の入学があること[8-9]や，そういった学生の学習意欲低下や専攻分野への低適応[10]も報告されている．本学もそのような状況は目立ってきており，そういった多様な学生に対し少人数制で歓談形式をとったことは，学生がこの場を利用して自由に先輩に質問や相談をすることにつながり，その中で考えを深めたり，整理したりして悩みを解決でき，モチベーション（学習意欲）を高めるきっかけとなったと考える．それは，今の自分に必要なこととして，「日々学んでいることにしっかり取り組む」「努力して積み重ねていく」「目標に向かって頑張る」をあげている学生が多かったことからも伺える．

また，学生が多くの学びを得た要因の一つに，「ようこそ先輩」の開催時期もあると考える．１年生の10月という時期は，１週間の臨地実習や前期定期試験を経て，後期授業で専門科目が始まり，看護の理解が深まりつつある一方でその難しさを感じている時期である．また，仏の前で誓う発願式に立ち会い，看護師を目指す上で看護への思いを新たにする時期でもある．このように，看護について理解が深まりつつある一方で多くの不安を抱える時期に，先輩の経験を聞いたり，不安や疑問を具体的に先輩に話し助言を得たりすることで，今後の方向性を見出し，学習意欲を維持・向上させることができたと考える．

今回の「ようこそ先輩」を通して，学生は看護の仕事がどのような仕事なのかを考え，理想の看護師像を明確にし，自分を見つめ，自分の欠点や今後取り組むべき課題を見出すなど，多くの視点から学びを得ていた．このように学びの多い有意義な時間となった要因として，学生と同じ大学を卒業し近隣の実習施設で働いている先輩看護師と，少人数制・歓談形式で実施したことが大きいと考える．したがって，今後もこの方法を継続していくことが良いと考えるが，多様な学生の状況も踏まえつつ，より効果的な手法を継続的に考え工夫していく必要もあると考える．

おわりに

看護系大学は職業に直接つながる教育機関であり，受験してくる学生の多くが将来看護職に就くことを希望している．そのため，看護学生は看護の専門職として自らのキャリアデザインを描きやすいと考えられるが，実際は常に揺らぎの中にいる学生も多い．今回，学生は先輩看護師と少人数で歓談することを通して多くの気づきや学びを得ており，そこからも多様な学生像を窺い知ることができた．今後，さらに多様な学生が増えることも予測されるため，今回の結果を生かしていくことはもちろんであるが，その時々の学生の状況を捉え，看護師としてのキャリアデザインを描けるような工夫をしていく必要がある．

最後に，この研究を行うにあたり，レポート内容を分析対象とすることを快諾くださった学生の皆様に心から感謝いたします．

引用文献

１）文部科学省．“キャリア教育とは何か”＜http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2011/06/16/1306818_04.pdf＞（2016. 7. 8）

２）中央教育審議会．“今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）”．平成23年１月31日．＜http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1301877.htm＞

３）田中道子，岡嶋良枝，野田貴代，石井成郎，榊原千佐子：看護短大生における本学選択の動機と描く将来像．愛知きわみ看護短期大学紀要，**1**，69-77，2005.

4）西村和雄：大学生の学力低下と日本の危機．教育と医学，**49**(10)，921-928，2001.
5）小野博：日本の大学生の学力低下問題と教員のFD．日本物理学会講演概要集，**59**(1-2)，413，2004.
6）西村和雄：看護学生の深刻な学力低下を考える　学力低下はなぜ起きたか．看護教員と実習指導者，**1**(1)，62-69，2004.
7）宇井徹雄：大学生の学力低下問題とその解決策．オペレーションズ・リサーチ：経営の化学，**54**(5)，243-248，2009.
8）竹本由香里：看護学生の看護系大学への進学志望動機の検討．宮城大学看護学部紀要，**11**(1)，13-20，2008.
9）原田彩奈，森山明美，佐久間夕美子，望月美由紀，佐藤千史：看護職志望動機に関する文献検討．看護展望，**40**(1)，79-85，2015.
10）石井秀宗，椎名由美子，柳井晴夫：看護大学生の学習活動と学習意欲等に関する研究．Quality Nursing，**9**(11)，48-58，2003.